

電機労働者懇談会

Electric Labor and Industry Correspondence

ELIC

2018年2月10日

No 374

1部100円

発行者：ELIC編集委員会谷口利男
142-0043 東京都品川区二葉2-20-8
電話(03)6421-5323 染野ビル2F
郵便振替00130-3-358078ELIC編集委員会

雇用と暮らしを守る春闘！

電機労働者懇談会（電機懇）は電機・情報ユニオンとの共催で、1月19日(土)午後1時～5時にかけて都内「東京労働会館」ラパスホールにて、「19春闘、電機の集い」を開催しました。この集いには、13企業31職場・4団体から61人が参加しました。

司会は電機懇相原・林事務局長次長がつとめました。

電機懇今井節生代表は19春闘の課題は、電機リストラ

への反撃や労働者を分断する降給や降格を可能にする処遇制度の改悪と闘い、消費税増税と安倍9条改憲を阻止する闘いを呼び掛ける主催者挨拶を行いました。

報告は、最初に電機懇19春闘「要求アンケート」に寄せられた408枚の集計結果の特徴について電機懇谷口利男事務局長が「生活の苦しさを59%の人が訴え、生活改善額で3万円以上を求める割合が75%になっており、加重平均で3万6555円を求めている」と強調しました。続いて、電機懇「19春闘提言」（2Pに骨子掲載）は電機懇井坂正敏政策委員長がポイント報告を行い、電機・情報ユニオンの「19春闘方針」を森英一書記長が報告しました。

職場報告は、①日立懇から原発にしがみつ়く経営は異常であり撤退すべきと強調。②NEC懇では3000人リストラで退職強要面談で労働局の助言指導を勝ち取った。③ルネサス懇から経営施策に関するWEBアンケート集計結果を報告。④沖電気から労働時間の入館記録がチェックされサービス労働が改善された。⑤パイオニアから台湾の投資ファンドに買収され、人べらしが実施されそう。⑥特別報告では、日立・NECDS・NEC大阪・三菱名古屋の4人が行った。

講演は、「AIと資本主義」と題して「経済」元編集



長の友寄英隆氏は11ページのレジメと豊富な資料で約80分間して頂きました。内容のポイントは「現在のAIと将来のAI」「AIの応用によって変わる労働過程」「AIと新自由主義路線の限界」で行われて、最後の2019年は、日本の民主的な運動の底力が試される重要な年になるであろうとむすびました。

質疑応答は5人が行い、AIの価値をどう見るから対応策などの質問にも回答も明確でした。

閉会挨拶は、ユニオンの米田委員長が行い、電機の

リストラで雇用対策本部を設立させる、職場内では高齢者に対する雇用への攻撃が強まっている。職場に自由と民主主義を守る闘いを強調し、がんばろう三唱で閉めました。

今月号の紙面

- ①19春闘「電機のつどい」開催
- ②19春闘「電機懇提言の骨子」
- ③19春闘で「経団連」包囲行動
- ④19春闘「経労委報告」の問題点
アンケート配布結果と統一ビラ配布
- ⑤東芝の会が「年次総会」を開く
- ⑥ラプラス「仲間たち」堀川さん
- ⑦電機情報ユニオン、青年コーナー
- ⑧不当解雇された伊草さん提訴する
金属労働者春闘の集会。集積回路